大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F117310105497	設置等組織名	情報工学部
大学名	金沢学院大学	設置区分	私立	事業計画名	金沢学院大学 情報工学部の新設
学校種	大学	都道府県	石川県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	(フェーズ2からのため対象外)			
	(なし)			
認可申請又は届出	令和4年度末に認可申請	令和5年3月15日認可申請書提出 令和5年9月4日設置認可 令和5年9月25日収容定員変更関係学部変更届出		
フェーズ1 後期	(フェーズ2からのため対象外)			
	令和5年9月～情報工学部開設のため2号館改修（4階） 令和5年9月～令和7年3月 情報工学部棟建設のための新校舎設計 令和5年12月 情報工学部のため2号館4階改修（AC+LAN敷設、内装） 令和6年2月 情報工学部のため2号館および2号館B棟工事等（LAN、分電盤、無線延伸） 令和6年3月 情報工学部のため2号館備品等設置	令和5年9月～情報工学部開設のため2号館改修（4階） 令和5年9月～令和7年3月 情報工学部棟建設のための新校舎設計 令和5年12月 情報工学部のため2号館4階改修（AC+LAN敷設、内装） 令和6年2月 情報工学部のため2号館および2号館B棟工事等（LAN、分電盤、無線延伸） 令和6年3月 情報工学部のため2号館備品等設置	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
開設又は定員増	令和6年度（令和6年4月1日）に開設	令和6年度（令和6年4月1日）に開設		
フェーズ2 後期	令和7年10月 情報工学部のため新校舎着工（新校舎建築工事（初年度）の実施） 令和8年4月（新校舎建築工事（2年目）の実施） 令和9年2月 情報工学部のため新校舎竣工 令和9年3月 情報工学部のため新校舎備品等設置 令和9年4月 情報工学部のため新校舎供用開始		○年度自己評価	リストから選択してください。
	令和6年4月 情報工学部生対象「令和6年度新入生入学特選講座」の実施（以降毎年度4月実施） 令和6年7月 情報工学部生対象「令和6年度前期未読講座」の実施（以降毎年度7月実施） 令和6年8月 情報工学部について産業界と意見交換の実施（以降毎年度8月実施） 令和6年9月 情報工学部企業戦略会議（学内）の実施（以降毎年度9月、3月実施） 令和7年1月 情報工学部生対象「令和6年度学年末調査」の実施（以降毎年度1月実施） 令和7年2月 情報工学部について自治体と意見交換の実施（以降毎年度2月実施） 令和7年10月 情報工学部のための高校生進路フェーズの動向調査（北陸地域対象） 令和9年4月 情報工学部のため新校舎供用開始 令和10年2月 情報工学部主催のデジタル人材育成についてのシンポジウム開催		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和5年9月経済情報学部経済情報学科学士募集停止報告 令和9年3月経済情報学部経済情報学科学士募集停止の届出予定	令和5年9月12日経済情報学部経済情報学科学士募集停止報告		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢学院大学
-------------	-------	-----	--------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学
 該当無し チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
 該当無し チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額措置を受けた大学
 該当無し チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
 該当無し チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
 該当無し チェック

3. 申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

<p>① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。</p> <p>☐ 確認を受けている ☒ チェック ☐ 確認の対象に該当しない ☐ チェック</p>	
<p>② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☐ チェック</p>	<p>事前の高校生への進学意向アンケートにおいては十分な志願者・入学者が見込める回答を得ており、初年度ということもあり入念な計画のもと学生募集を実施した。しかし、1月1日に発生した石川県能登半島地震により、県内の入試情勢に少なからぬ変化がもたらされたため、当初の計画通りの結果とはならなかった。令和6年度は令和7年度にむけた情報工学部の学生確保に向けて、より一層の周知を図るとともに、高等学校との連携を強化し、高等学校が主体で実施するDX/ハイスクール事業に積極的に関わること、地域の理系人材育成を担う学部としての存在感をアピールする予定としている。</p>
<p>③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の特組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>⑦ 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>⑨ 事業計画の法定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる、又は設置等を行った ☒ チェック</p>	
<p>⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	
<p>⑪ フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。</p> <p>☐ 計画通りに進んでいる ☒ チェック</p>	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢学院大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑬	選定された大学は、公算要領に定める申請要件を満たす高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行う。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十八条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣諮問）六（二）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック

4. 審査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部情報工学科では、学生の自主的かつ主体的なキャリア形成力を養成するため、体験型のキャリア教育科目として「就業体験（インターンシップ等）」を配置する。これは、企業等において一定期間、実際の業務を体験し仕事や職業に対する理解を深め、自己の職業適性や職業選択について深く考察し社会人として活躍していく基盤を形成する。特色として、本学の位置する北陸における自治体・企業で就業体験ができる機会を設ける。本科目を通じて、地域が抱える課題について認識を深め、さらに組織の一員として課題に取り組み体験から地域産業に貢献するために求められる能力や人間性についての理解を深め、自己の成長に主体的に取り組むことを目指す。科目担当者と就業支援部の責任窓口になる。実習先組織の実習期間中および事前・事後の連携（「事前研修」（登録付けおよび実習先組織についての理解）、「業務日報」等の指導・評価等）を実施する。既存学部の令和4年度の実績において102組織の実習先を確保している。今後、情報工学部と目的が適合する北陸地域の自治体、企業等をさらに抽出・開拓するとともに、IT系企業や企業等の情報システム部門を中心として、連携開拓を継続的に進める計画である。	令和5年度は開設前であるため、未実施である。今後入学する学生からの想定される進路を鑑み、現状においてはコンピュータ工学分野とデータサイエンス分野の学びと直結する職種を持つ企業等との接点開拓を進めている。近隣自治体および産業界との協議を重ねる中でデジタル人材のニーズの一面の高まりを確認する一方で、就業体験等を実施するタイミングについて慎重に議論している。	特に無し

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・クリスリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学部は本学にとって初の理系学部となるため、入学者選抜における科目については数学と英語、そして論理的思考に重きを置く理科科目として物理と化学を重視する他、その出題範囲についても教IIIを含めると、総合校びは一律に画一的な試験科目とする計画である。そして、女子学生の確保が本校推薦型選抜（KGスカラシップ）学校推薦型選抜に10名程度の女子枠を設定する。また、情報工学部女子学生の学習をサポートし、ロールモデルとなる女性教員が令和6年度より新任予定である。周辺地域の中学校、高等学校を主な対象とする出張授業については、情報工学部兼任予定教員が本学部附属中学校および附属高等学校を含む近隣の学校を訪問し、直接ニーズの聴取を行ったうえで現在は具体的なプログラムについて協議を開始した。社会人の受入れについては専断制の社会人選抜を設けて公表した他、石川県商工労働部と協働でリカレント教育プログラム開発を進める。	情報工学部の入学者選抜における科目については数学、英語、物理、化学を重視した他、その出題範囲についても教IIIを含め実施した。学校推薦型選抜/KGスカラシップ学校推薦型選抜に10名の女子枠を設定し、その旨を公表した。また、情報工学部の女子学生の学習をサポートし、ロールモデルとなる女性教員が令和6年度より新任予定である。周辺地域の中学校、高等学校を主な対象とする出張授業については、情報工学部兼任予定教員が本学部附属中学校および附属高等学校を含む近隣の学校を訪問し、直接ニーズの聴取を行ったうえで現在は具体的なプログラムについて協議を開始した。社会人の受入れについては専断制の社会人選抜を設けて公表した他、石川県商工労働部と協働でリカレント教育プログラム開発を進める。	近隣の高等学校を訪問し、各校の進路担当教諭等にヒアリングを行う中で、入試科目の内容について、成長分野の人材育成の観点においてはその必要性に強い賛同が得られたものの、理系人材の拡充を目的とした受験生確保の面で懸念する様子もみられた。これについては今後、実際の入試データおよび入学生の状況について分析を行い、必要であれば随時見直しを図っていく。

大学名	金沢学院大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	810	910																		
		入学者数	人	812	775																		
	その他の学期	入学定員	人	***	***																		
		入学者数	人	***	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	810	910																		
		入学者数(B)	人	812	775																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.00	0.85																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	3159	3370																		
		編入学定員	人	85	90																		
		在籍者数(D)	人	3375	3313																		
		編入学者数	人	37	42																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.07	0.98																		

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定-1年	選定	開設			完成年度									
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		54,661	55,384	38,239	135,238	58,346	39,180													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	56,130
本事業による助成金の額(F)	千円	1,040,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	82,130

特記事項